

<第72回“社会を明るくする運動”千葉県作文コンテスト 中学生の部

千葉県保護司会連合会長賞受賞>

「ながら見守り隊への感謝」

栄町立栄中学校 1年 甲斐 みのり

私の父は、家でテレワークをしていて、私が学校に行く時間帯にいつも散歩に出かけます。ただの散歩だと思っていました。私の母は、毎朝、私の登校の時に弟と歩道に出て、見送りをしてくれます。私が下校している時も、草むしりをしながら、家の外で待っている時があります。私が遊びに行く時も、私の姿が見えなくなるまで手を振ってくれます。

ただの心配性だと思っていました。

もう中学生だから大丈夫だと言ったら、母はこの町には、ながら見守り隊というものがあることを教えてくれました。ながら見守り隊とは、私の住んでいる町の児童生徒の、登下校における安全確保のために地域ボランティアによる様々な見守り活動のことで、犯罪や事故の少ない安全で安心な町づくりのために、外で花に水やりをしたり、犬の散歩をしたりしながら、児童生徒の見守り活動を実施するというものだそうです。両親は、私だけでなく、他の児童生徒たちの事も、見守っていることを教えてくれました。栄町教育委員会がマチコミを使って、不審者情報などを配信し、児童生徒の見守りを呼びかけていることもわかりました。

両親が、散歩しながら、見送りしながら、この、ながら見守り隊の活動をしていたことを、私は全然知りませんでした。私は、ながら見守り隊を知って、私たちのことを不審者や事件、事故から守ってくれていて、とてもありがたいなと思いました。自分の身は自分で守らなければいけないと思っていたけど、こうやってたくさんの方々が、ながら見守り隊の活動をしてくれて、とても心強いです。

私はみんなで、ながら見守り隊をやれば、事故や犯罪だけでなく、困っている人なども減ると思います。地域の方々は、「おはよう、気を付けて行ってきてね」と犬の散歩をしたり、ゴミを捨てに行ったりしながら、私に声をかけてくれることがあります。でもお辞儀をすることしかできませんでした。ながら見守り隊のことを知って私は、「このままではダメだ」と思いました。恥ずかしいけれど、きちんと挨拶をして、私にできることをしなければいけないと思いました。

私の住んでいる地域には、お年寄りも多いです。地域の方々が、私たちを見守ってくれているので、私も困っている人がいたら、声をかけたり、ゴミ捨て場までゴミを運んであげたり、私にできることをして、お礼にみなさんの役に立ちたいと思いました。声をかけるのは恥ずかしいけれど、まずは簡単なことから始めて、地域の方々と少しでもいいから仲良くなれたらいいなと思います。

今、安全で安心な町があるのは、ながら見守り隊をしてきている、地域の方々、両親、私たちに関わって下さる方々のおかげだと、私は思います。今ある町の安全安心が当たり前ではなく、皆さんのおかげであることに感謝しながら、毎朝学校に通いたいと思います。

そして、何も言わず、そっと見守り隊を続けている両親の姿を忘れずに、いつか私も見守り活動に参加したいと思います。